

施術者氏名 番号	第7回 case13
年齢(代)	10歳未満
性別	男

S (subjective) : 主観的情報	
主訴	夜尿症
既往歴	アトピー性皮膚炎(乳幼児より) (アレルギー) (手術歴)なし (出産) (事故)
家族歴	(父) (母) (子)
現病歴	(医師による診断名)夜尿症 (発病様式・内容・経過)幼児期より夜尿頻回にあり医療機関にて服薬治療中。服薬はx-3年より開始、服薬前の夜尿は2~3日に一度であったが服薬にて5~6回/日に減少する。 夜尿はシーツを濡らすくらいの量である。 (服薬)デスマプレシン酢酸塩水和物口腔内崩壊錠、オロパタジン塩酸塩錠

O (objective) : 客観的情報	
初診日	x年2月
所見(脈・舌・バイタル等)	(バイタル) (脈) (舌) (腹) (硬結)右下腹部の腹直筋外縁に沿って鼠径靭帯から臍部相当の高位にかけて索状硬結あり (圧痛) (腫脹) 前額部、背部、肘窩、膝窩、下腿に湿疹

A (assessment) : 評価	
評価・弁証	(弁証) (評価法)夜尿の頻度 (流派)

P (plan) : 計画 (治療)	
計画・治療・指導	(取穴)次髎、中髎、白環愈、復溜、水道、大巨、(いずれも両側)中極、归来(右) (刺鍼法) 台座灸 各2壮 (時間)20~30分 (得気)無 (深さ) (頻度)5日~2週間/回 (指導)

経過	<p>x年2月20日来院、上記灸施術をおこなう。(2/17に夜尿あり)</p> <p>2/25 来院、灸施術</p> <p>2/26 夜尿あり</p> <p>3/1 来院、灸施術</p> <p>3/5 来院、灸施術</p> <p>3/9 来院、灸施術</p> <p>3/11 夜尿あり</p> <p>3/13 来院、灸施術</p> <p>3/18 来院、灸施術</p> <p>3/23 来院、灸施術</p> <p>3/28 来院、灸施術。下腹部の硬結軽減されている、治療頻度を1w/回に延長する。</p> <p>4/4 来院、灸施術</p> <p>4/11 来院、灸施術。治療頻度を2週/回に延長する。</p> <p>4/22 夜尿あり</p> <p>4/25 来院、灸施術</p> <p>4/27 夜尿あり</p> <p>4/30 担当医を受診。鍼灸治療報告書を渡していただき鍼灸治療の継続を許可頂く。(投薬治療も継続、処方内容変更なし)</p> <p>5/2 来院、灸施術</p> <p>5/5 夜尿あり</p> <p>5/9 来院、灸施術</p> <p>5/15 夜尿あり</p> <p>5/16 来院、灸施術</p> <p>5/20 夜尿あり</p> <p>5/23 来院、灸施術</p>
特記事項	<p>本症例は夜尿症に対し鍼灸治療を併用した症例である。治療の際には毎回保護者に同席をお願いし、医師に対しては施術報告書を提出することで鍼灸施術に係る方々へ鍼灸治療の具体的な内容と意図を理解していただくよう努めた。</p> <p>以下が医師に提出した報告書の内容である。</p> <p>主訴：夜尿症</p> <p>既往歴：アトピー性皮膚炎</p>

鍼灸施術：x年2月20日に夜尿症に対し補完的に鍼灸治療をおこないたいと希望され来院されました。

施術内容といたしましては体性自律神経反射を介した膀胱容量の増加を目的に仙骨上のデルマトーム S2~3の領域ならびに下肢の S2 の領域への施灸と、1) 腹直筋に筋緊張がみられたため緊張緩和を目的とした腹部への施灸をおこないました。

施灸内容は灸熱緩和紙の上に 43~45°Cの熱刺激を与える灸を用いた温灸施術をおこなっております。(非接触体温計による施灸部位への皮膚温測定では施灸前 36.9°C→施灸後 39.6°Cでした)

鍼灸施術の頻度は3~5日に一度から開始し、夜尿症の頻度に応じて施術の間隔を暫時延長し、現在は1~2週に一度の間隔でおこなっております。

以上が鍼灸施術報告になります。

鍼灸施術にあたりまして体調不良や症状増悪することがありましたら鍼灸施術を中止し医療機関受診を勧めます。

その他、注意点やご指摘等ございましたらお申し付けください。

今後ともよろしく願いいたします。

参考文献：1)北小路博司，寺崎豊博，本城久司ら：過活動性膀胱に対する鍼治療の有用性に関する検討，日泌尿 会誌，86: 1514-1519, 1998.

以上が報告書の内容である。

治療内容の反省点として

4/11 の段階で経過良好であるため治療頻度を2週/回に延長したが、その後から夜尿の頻度が増加してしまっており離脱を図る時期としては早かったと考えている。